

事業概要

コンソーシアム名：多職種間情報共有・連携システム構築事業推進コンソーシアム

事業概要：地域包括ケアシステムを構成する事業者が利用するソフトウェアのうち、特に情報の冗長性が高い電子カルテ、臨床検査システム、検診システムについて、繰り返される無駄な入力作業を削減するための情報の自動的共有化を行う。

【取組地域】

・兵庫県神戸市・長田地域

【対象業種】

・医療業

【対象業務】

・検査検診業務等

コンソーシアム構成員

幹事者：

医療法人社団十善会

中小ユーザ企業：

医療法人社団十善会

ITベンダー等：

株式会社ワイズマン

株式会社プロアス

現状の業務課題

野瀬病院を中心とした地域包括ケアシステムを構成する各事業所が利用者に関する様々な最新情報を素早く入手できるための情報共有システムを構築すること、無駄な2重作業やサービスの提供ミスの削減により労働環境の改善を図ることである。

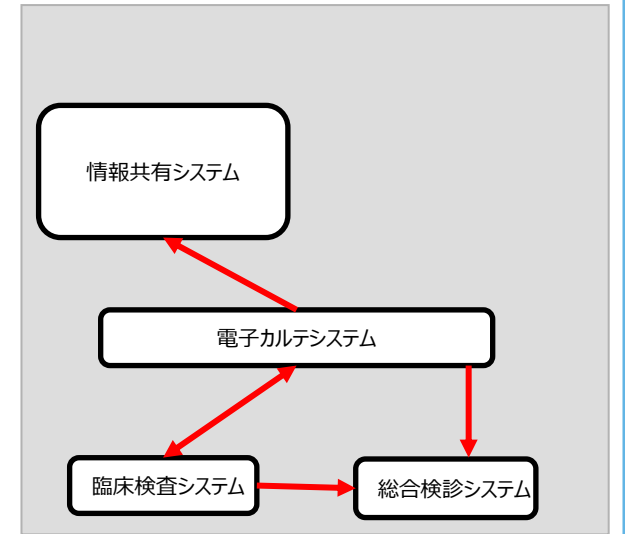
連携させるITツール

電子カルテシステム[ER]：医事会計機能付き電子カルテ
テクノア総合健診システムiHeart3：健診結果の自動判定等
臨床検査システムER：分析数値の管理

主な取組内容

医)十善会が組成する地域包括ケアシステムの中心となる野瀬病院の業務改善に取り組む。特に情報の冗長性が高い電子カルテ、臨床検査システム、検診システムについて、繰り返される無駄な入力作業を削減するための情報の自動的共有化を行う。また、情報共有システムを導入し、グループ内の全ての事業者から利用者に関する最新情報を吸い上げ、共有する仕組みを構築する。

- ・電子カルテシステムに登録された患者基本情報を臨床検査システム及び総合検診システムと自動共有。
- ・臨床検査システムに登録された検査結果情報を電子カルテシステム、総合検診システムと自動共有。
- ・電子カルテシステムの最新情報を情報共有システムが自動的に吸い上げ。各部門がいつでも閲覧可能とする。



次年度以降の展望

検査終了～ドクターによる結果検討～患者へのフィードバックという従来1～2週間程度必要であった一連の作業のスピードを大幅に早める。また、運用しながら情報共有システムの共有情報項目を精査し、業務効率やサービスの改善を繰り返す体制を構築する。

定量的な成果目標

①労働生産性（事業終了後）

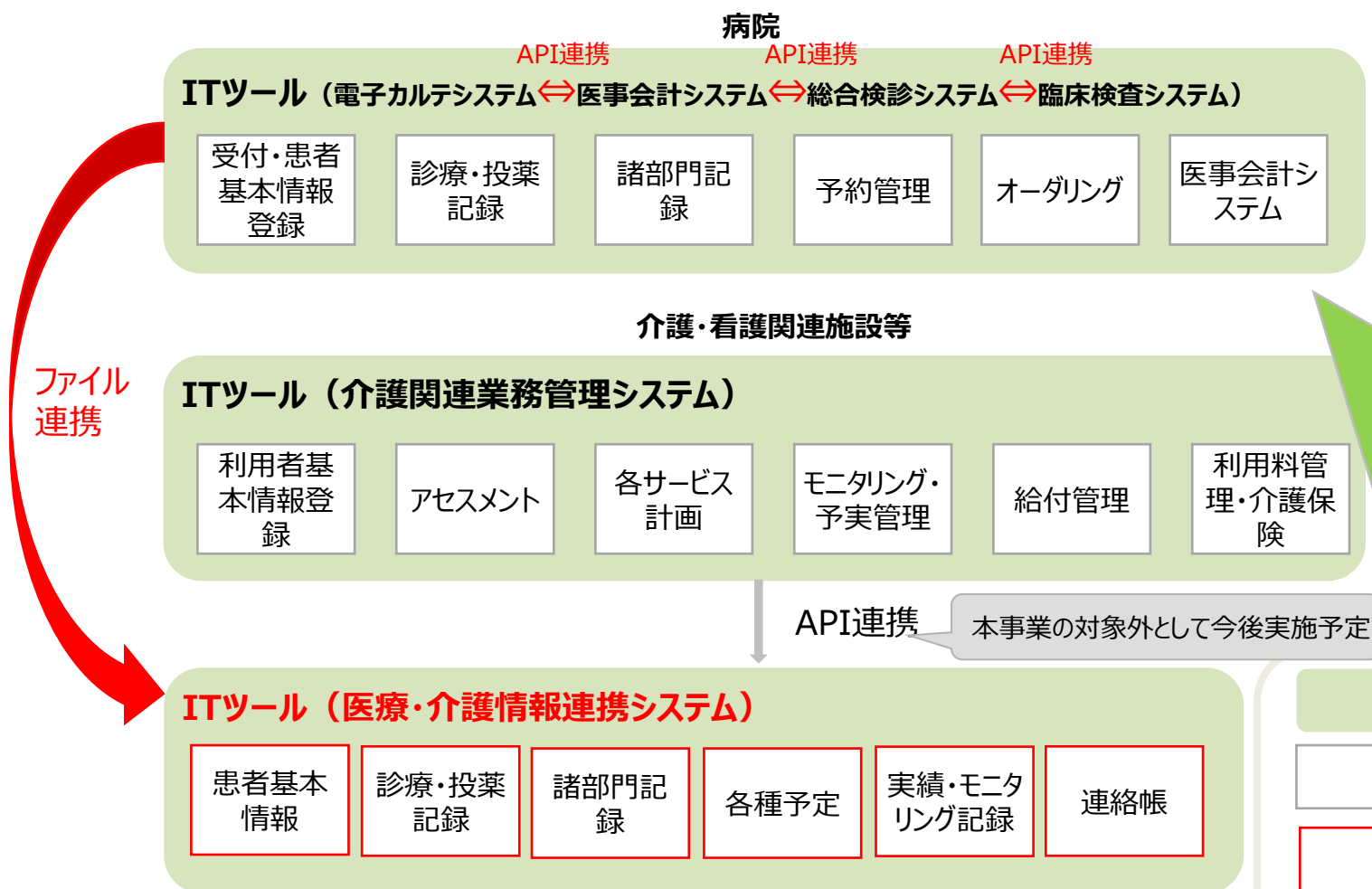
1年後：3.7%、2年後：8.4%、3年後10.7%

②年間総労働時間の削減率・向上率（事業終了後）

1年後：390,196時間、2年後：386,294時間、3年後380,834時間

地域包括ケアシステム内の各事業者が利用者に関する最新の情報を共有することにより、最新の情報による最適なサービスを時間や労力の無駄なく提供することができる。また、オーダリングなどの従来人手に頼っていた業務も最新のシステムにより自動化することで、更に業務の効率化が進む。これにより、従業員数を増やさずとも患者や利用者を増やすことができるとともに、全体の就労時間を3年間で約2.4%削減できる見込みである。

ITツールの連携による生産性向上の取組（アフター）



【解決策】

情報共有システムを通じて、グループ内の全ての事業者から利用者に関する最新情報を吸い上げ、共有する仕組みを構築する。また、基幹システムはオーダリング機能などの効率化のための最新機能を備えたものとする他、リハビリや検診を支援する効率化のための新たなシステムも同時に導入する。

【効果】

最新の情報による最適なサービスを時間や労力の無駄なく提供することができることで、全体の就労時間を3年間で約2.4%削減できる見込みである。

- …ITツールのカバー範囲
- …業務内容の例
- …連携する情報の例
- …本補助事業で連携予定